

## 5 安全教育の確実な実施のために

### 1 安全学習

「教科等における安全学習」は、自分や他者の安全を守るためのよりよい行動などをじっくりと考えさせ、深め、追究させる学習活動である。

安全学習では、日常的・定期的な安全指導において指導された「必ず指導する基本的事項」と関連させて、児童・生徒等が危険を予測し回避するために必要な思考力や判断力を高め、適切な意思決定や行動選択ができるようにすることが大切である。

[実施の場と時間]

#### 【教科等における安全学習】

各教科・科目、総合的な学習(探究)の時間、特別活動(学級活動・ホームルーム活動、学校行事等)等

#### (1) 教科等の安全に関する内容を把握する

安全学習を確実に実施するには、教科等における安全に関する内容について、学習指導要領から把握することが必要である。

(例) 「災害安全」に関する内容

小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 第 2 章 第 2 節 社会 第 2 各学年の目標及び内容 [第 4 学年]

#### 2 内容 (3)

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 第 2 章 第 7 節 保健体育 第 2 各学年の目標及び内容 [保健分野]

#### 2 内容 (3)

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 第 2 章 第 5 節 理科 第 2 款 各科目

#### 第 1 科学と人間生活 2 内容 (2) ア

(エ) 宇宙や地球の科学

##### ① 自然景観と自然災害

自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解すること。

#### 第 8 地学基礎 3 内容の取扱い (2) イ

(前略) ①の「恩恵や災害」については、日本に見られる気象現象、地震や火山活動など特徴的な現象を扱うこと。また、自然災害の予測や防災にも触れること。

なお、各校種の学習指導要領に掲載してある「防災を含む安全に関する教育」(現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容)を一覧にした資料を、東京都教育委員会ホームページに掲載しているので、参照されたい。(P.108 を参照)

## (2) 育てたい資質・能力を明確にする

各学校においては、安全教育の目標を踏まえ、学校、地域の実態及び児童・生徒等の発達の段階を考慮して、育てたい資質・能力を明確にした上で、学校の特色を生かした目標や指導の重点を設定し、計画的に取り組むことが重要である。

また、育てたい資質・能力を育てるためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、体験的な活動や、身近な生活と関連させた調査などを重視した学習活動の工夫が求められる。

## (3) 関係機関と連携する

安全学習においては、専門的な知識をもつ警視庁や東京消防庁、自治体の防災担当部署等の関係機関と連携し、児童・生徒等がより実践的に学習できるようにする。

その際、教員が主体となって授業を行い、外部講師からは児童・生徒に対し、専門的な内容について説明してもらうように指導計画を立てることが大切である。

## (4) 授業等を考えるときの確認事項を決める

例えば、次のような視点で確認するように項目を決めておくとよい。

- 教科等の目標、教科等の学び方の特性を踏まえた学習になっているか。
- 地域の特徴に応じた事例等を扱い、実感がもてる内容になっているか。
- 単元（題材）を通して安全教育の視点で学ぶ内容にするか。
  - ・ 指導計画の中で、特定の時間において安全教育の視点で学ぶ内容にするか。
  - ・ 1 単位時間の中で、安全教育の視点で学ぶ内容にするか。
- 「安全教育プログラム」、「防災ノート～災害と安全～」、「東京マイ・タイムライン」等が活用できるか。
- 幼児・児童・生徒が学んだことを生かし、実際に行動に移すことを考えられる内容になっているか。

また、以下に、「安全教育プログラム」に掲載している実践事例より「安全教育の視点」、「教材化の視点」、「安全教育の視点に立った留意点」について一例として示す。

**実践編**

**4 災害安全における実践事例**

**災害安全①** 地域とともに「いのち」と「こころ」をつなぐ学びについて考える事例  
中学校 第2学年（総合的な学習の時間）

**単元（題材）について**

1	単元名	水害時の避難経路の情報を共有し、安全な避難行動をしよう
2	【必ず指導する基本的事項】との関連	
	区分	Ⅲー4 気象災害時の安全
	目標	風水害、雷害の危険を理解し、安全な行動ができるようになる。
	内容	風水害時の危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。

**3 教材化の視点（身に付けさせたい資質・能力）**

本校は、河川に隣接しており、台風等の影響により河川が氾濫し、学区域一帯が浸水する可能性がある。このような風水害が発生することを想定して、生徒自身の生命を守るとともに、家族や地域住民と協力して、学校から避難するまで多くの人の命を守る行動につながるよう、防災に関する基本的な知識や実践力・行動力を身に付けさせたい。

そこで、地域の風水害の歴史を題材に、当時の被災状況を学ぶとともに、地域コーディネーターによる講話、**避難行動訓練**（実際に避難所まで行き、場所や経路の確認、危険箇所や水路等の確認、定着での所要時間の確認等）や**ハザードマップ**を活用した防災に関する学習を実施することがある。

**指導計画（10時間扱い）**

時間	①主体的学習活動	②安全教育の視点に立った留意点
1	○地域と風水害の歴史について学ぶ。	○地域コーディネーターの講話を中心に、江戸時代から現在にかけての、地域の歴史、風水害への対策等について、身近な例として理解する。
2～3	○学校や自宅からの避難行動計画を作成する。	○各クラスの避難経路を作成し、自らの避難行動計画を作成する。 ○地域における避難行動計画についても考え、自問のみならず、共助についても考える。
4～5	○地域の地図やハザードマップ等を活用して、風水害発生時の避難について考える。	○自治体の防災主管課職員からの講話を基に、ハザードマップを活用し避難経路について考える。
6～10	○避難行動訓練を通して、実際の避難時の留意点を発見し、ハザードマップを活用しつつ、実際に行動について考える。	○各クラスの避難経路を実際に確認し、ルート上の危険と調査するポイントを確認する。 ○避難行動訓練、浸水・水没等を想定した学校からの避難経路に加え、自宅からの避難経路や、自宅からの避難経路について考える。

**指導の工夫**

大雨が降った場合の防災気象情報による避難計画を身近な地域に置き換えることで、生徒の関心や疑問、生活経験を基にした地域の課題を多面的に捉える。そして、地域の課題を探究的な見方・考え方を働かせながら、実際の避難の際に注意すべき点等の情報を共有し、地域全体で緊急時に命を守る行動につながるような対応力を身に付けるための深い学びを実現させていくことができると考える。

58

### 【目標】

安全に関する目標と内容を示す。  
 「必ず指導する基本的事項」で該当する内容を示す。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性等」などを記述すると、育てたい資質・能力が明確になる。

### 【教材化の視点】

目標を達成するための学習活動や具体的な工夫等について記述する。  
 教科等の特質に応じ、関連する内容について示すことも考えられる。

### 【安全教育の視点に立った留意点】

各時間における指導事項や、指導に当たって、留意すべき点を記述する。  
 使用する教材・教具などを示しておくことも考えられる。

学校における安全教育とプログラム

安全教育で身に付ける力

安全教育の3領域

必ず指導する基本的事項

安全教育の確実な実施のために

安全教育の計画

安全教育の評価

安全教育の計画例

実践編

実践事例一覧

生活安全における実践事例

交通安全における実践事例

災害安全における実践事例

一斉事例（校種別）

資料編